

**デイサービスの LIFE フィードバック表を “価値ある情報”にするために(活用方法)

—ご本人・ご家族、ケアマネ共有で深まる科学的介護—

近年、介護現場では「科学的介護」の推進が求められ、ケアネットのデイサービスでも LIFE(科学的介護情報システム)の活用が進んでいます。しかし、LIFE は単にデータを提出するだけではなく、フィードバック表をどのように活かすかが、サービスの質を高める大きな鍵になります。

デイサービスセンター長野第二では、生成されたフィードバック表を

- ① ご利用者・ご家族へ“見える化”して届ける発信用ツールとして活用
 - ② 居宅ケアマネジャーへケアの進捗と効果を伝える情報提供書として活用
- という二つの視点で取り組んでいます。
-

**1. ご利用者・ご家族向け:

“変化が見える”ことで励みにつながる**

フィードバック表は、ADL の改善傾向や口腔・栄養状態、取組みの成果が数字として示されます。これを丁寧に説明しながらお渡しすることで、

- 「前より歩くスピードが速くなっていますね」
- 「栄養リスクが改善しています。デイでの食事やリハビリの成果が出ています」
- 「体操を続けているから関節の動きが安定しています」

といった “前向きな変化”を実感していただけます。

とくに高齢の利用者さまは、自分の身体状態の変化を感じ取りにくいことが多いもの。だからこそ、数字とグラフで示されたフィードバック表は、

- 本人のモチベーション向上
- ご家族の安心とサービスへの理解

- リハビリ継続への意欲

につながる“力のあるツール”となります。

**2. 居宅ケアマネジャー向け:

科学的根拠に基づくケア方針の共有に最適**

居宅ケアマネジャーにとって、利用者の状態変化はケアプランの再考や目標設定の重要な材料です。LIFE のフィードバック表には、以下のような再計画に役立つ情報が詰まっています。

- ADL 維持・改善の推移
- 口腔・栄養状態の変化
- 認知症アセスメントの傾向
- 個別機能訓練の実施内容と結果

これらを定期的に共有することで、

- 「リハビリの目標をもう一段階引き上げましょう」
- 「栄養リスクが出てるので、配食サービスの導入を検討しましょう」
- 「デイでの歩行訓練の成果を踏まえ、在宅での生活動作も見直しましょう」

といった 多職種連携がより精密に、より科学的に行えるようになります。

ケアマネからは、

「効果の可視化ができることで、サービス担当者会議が非常に進めやすくなる」という声も多く、現場の信頼性向上にもつながっています。

3. フィードバック表を“活ける資料”にするために

デイサービスセンター長野第二では、以下の工夫を実践しています。

- ✓ ご利用者には、見やすさを優先してポイントを絞った解説(AIで要約)を添付

- ✓ ケアマネには、個別機能訓練計画書やモニタリング情報と一緒にセットで提出
- ✓ 変化があった項目は、現場の取り組み内容を加えて“因果関係”も説明
- ✓ 定期的に「成果共有の場」を設け、次の目標を共に設定

フィードバック表は、単なるデータではなく“ご利用者の生活をよりよくするための羅針盤”として活用することができます。

**まとめ：

LIFEは、デイサービスの“価値”を伝える強力なツール**

LIFEのフィードバック表を、本人とケアマネ双方向に活用することで、

- ご利用者の意欲向上
- 家族の理解と安心
- ケアマネとの科学的連携
- デイサービスの取り組みの可視化

が同時に実現できます。

デイサービスの取り組みが“見える化”されることで、私たちの専門性がより明確になり、より質の高いケアへつながっていきます。